



先進地紹介

中心市街地活性化の取り組み

～新潟県十日町市～

常陸大宮市 建設部 都市計画課 係長 上久保 博 光

■はじめに

平成30年8月7日、8日の2日間、茨城県都市計画協会主催の先進地視察に参加しました。

ここでは第9回まち交大賞まちづくりシナリオ賞を受賞した、新潟県十日町市の中心市街地活性化基本計画に基づく街づくりについてご紹介します。

■十日町市の概要

十日町市は、新潟県南部に位置し、中央部を日本一の大河信濃川が南北に流れ、総面積の約70%を山林・原野が占めており、年間の平均積雪量が2mを超える豪雪地帯です。

平成17年に、旧十日町市、川西町、中里村、松代町及び松之山町の5市町村が合併して誕生しています。

◆十日町市の都市計画等

- ・非線引き都市計画
 - ・都市計画区域（一部）：十日町、川西
 - ・行政面積：590.39km² ・市全域人口：約5.4万人
- ※非線引き都市計画，一部都市計画区域，5市町村の合併により広大な行政面積を保有し，その約6～7割を山林・原野が占めるなど，常陸大宮市と類似した状況です。

■中心市街地活性化基本計画の策定

昭和50年代までの中心市街地は、当時隆盛であった織物産業に牽引される形で市民経済が発展し、活気に溢れていましたが、近年は需要の低迷、人口減少により、かつてのにぎわいが失われつつありました。

このような状況のなか、十日町市本来の強みである市民の「つながり力」や「市民活動」といった社会的な資本を活かして、「新たなにぎわい」に満ちた「魅力あるまち」の創造～“安心・快適・ときめき”のまちづくり～を基本理念に掲げ、平成22年より中心市街地活性化基本計画の策定に着手し、平成25年6月に国の認定を受け、取組みを進めています。

行政が先導的に事業に取り組み、民間投資の誘発を図る点が、本計画の特色となっています。

■民間活力を導入した官民融合の投資促進

平成16年の中越大地震による被災や景気低迷などに

より、地域の2つの大型集客施設（衣料品店・娯楽施設）が撤退したことに伴い、跡地利用について、民間活力による大型集客施設の開発に取り組みました。

市長を先頭に企業の誘致活動を行い、約50社以上の民間企業を訪問した結果、7社から応募があり、2事業者が決定しました。さらに、中心市街地活性化基本計画の認定を国から受けたことにより、建設費への補助金支援や税制の優遇措置が取られました。

○アップルとおかまち（地上5階，地下1階）

【事業主体：㈱ファイン・テン】

サービス付き高齢者住宅（50戸）、ファミリー向け都市型住宅（12戸）、老人デイサービス、交流プラザ、地下駐車場、子育て支援センター「くるる」（十日町市が区分所有）



○十日町産業文化発信館「いこて」（木造2階建て）

【事業主体：㈱フジタ】

カフェレストラン、日本酒バー、コミュニティスペース、雁木など



■過去とは違う「新たなにぎわい」の創出 まちなかステージづくり

まちなかをステージ（舞台）に見立て、市民が共に楽しい活動を実践（上演）していく場を「まちなかステージ」と位置付けています。

その拠点となる市民活動と交流のための施設として、「市民活動センター」及び「市民交流センター」を整備するため、3年間の市民ワークショップを重ねながら、市民主体となる自主的な活動が、施設完成後にも活発に展開される仕組みづくりを行っていました。



◆従来にない新たな公共建築の整備手法（3つのポイント）

- ①構想段階から使い手である市民が参画し、計画づくりを行う。
- ②実施設計・工事段階においても、市民や活動団体からの意見を取り入れる。
- ③設計事務所の分室「ブンシツ」を市民活動の予行演習の場所として活用。

これらの取組みが「まちなかステージづくり」であり、施設の総称となっています。

◆設計者選定公開プレゼンテーション

市民の意見を取り入れるため、市民代表4名を含む計10名で審査を行い、市民がどのようにして空間設計に関わるのかという視点が評価された(株)青木淳建築計画事務所が、設計者に選定されました。

◆施設の愛称

二つの施設が市民に長く愛され、親しんで利用してもらうために愛称を募集し、応募数251通の中から決定されました。

○市民交流センター「分じろう」

- ・旧本町分庁舎であり、本町2丁目に所在する施設として命名
- ・地元内外の人々への「発信」と「交流」を想定した施設



○市民活動センター「十じろう」

- ・通称センタークロス、いわゆる十字路のそばにある施設として命名
- ・地元の人々の「活動」と「創作」のための施設



◆2016グッドデザイン賞受賞

まちなかステージ「分じろう」「十じろう」の公共施設設計における協働の取組みは「2016年度グッドデザイン賞」を受賞し、受賞した1,229件の中から特筆して優れているとして「グッドデザイン・ベスト100」に選定されています。

◆まちなかステージの利用状況

平成28年度 49,107人（10ヶ月間）

平成29年度 53,260人（10ヶ月間） 計102,367人

「分じろう」「十じろう」の利用状況は、平成28年度から平成29年度にかけて、109%の利用率アップとなり、利用者合計は10万人を突破しています。

■都市再生整備計画事業（地方都市リノベーション事業）

中心市街地活性化の実現に向けて、都市再生整備計画事業（地方都市リノベーション事業）の基幹事業にて、6年間（H24～29年度）で整備を行っています。

◆主な基幹事業

- ・道路：「キナーレ」南側進入路ほか市道4路線
- ・地域生活基盤施設：キナーレ南広場
- ・高次都市施設：市民文化ホール「段十ろう」
子育て支援センター
- ・地方都市リノベーション推進施設：
旧田倉跡地の活用〔アップルとおかまち〕
旧娯楽会館跡地の活用
〔十日町産業文化発信館「いこて」〕
- ・既存建造物活用事業：市民交流センター「分じろう」
市民活動センター「十じろう」



市民文化ホール「段十ろう」

■第9回まち交大賞 まちづくりシナリオ賞受賞

震災の影響や経済状況の低迷により、廃業した工場や商業施設の跡地を活用し、公益施設や居住施設をまちなかへ集積したこと、また、跡地活用にあたっては、民間事業者を対象とした事業公募を行い、民間の資本投資を促進したことが評価され、十日町市は「第9回まち交大賞まちづくりシナリオ賞」を受賞しています。

■おわりに

本市が「常陸大宮駅周辺整備事業」を進めているなかで、今回の視察を通して参考になると感じたことがいくつかありました。

十日町市は、中心市街地活性化を大きな指針として街づくりを進めており、本市においても目標となる指針を定め、その実現に向けて全体で取り組むことが大切であると感じました。

最後に、人が歩きやすくなる施設を集約し、配置することによって、街なかの活性化、市民の交流を活発にすることは、現在、本市が策定中である立地適正化計画、行政・医療機関や商業が集中する常陸大宮駅周辺整備においても参考となる有意義な視察研修でした。

